

# 令和3年度【第1回】府中市保健計画・食育推進計画推進協議会

日時：令和3年11月30日（火）  
午後6時40分～8時20分  
場所：保健センター1階

- 出席者 藤原 佳典（学識経験を有する者・  
独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所）  
芦川 伊智郎（社会福祉関係団体・府中市社会福祉協議会）  
井手 徳彦（医療関係団体・府中市医師会）  
黒米 俊哉（医療関係団体・府中市歯科医師会）  
恩田 茂（商工関係団体・むさし府中商工会議所）  
星野 浩伸（商工関係団体・（株）セブン-イレブンジャパン）  
池田 晃次（農業関係団体・マインズ農業協同組合）  
田邊 純子（健康増進又は介護予防のための運動を指導する者・  
府中市立介護予防推進センター）  
廣繁 理美（関係行政機関・多摩府中保健所）  
清水 春美（公募による市民・市民）  
平河 弘子（公募による市民・市民）

事務局：柏木福祉保健部長  
横道健康推進課長  
矢野東健康推進課長補佐  
小澤保健師（健康推進課・成人保健係）  
田中保健師（健康推進課・成人保健係）  
松田看護師（健康推進課・成人保健係）  
中鉢栄養士（健康推進課・成人保健係）  
松村栄養士（健康推進課・成人保健係）  
渡邊歯科衛生士（健康推進課・成人保健係）

※協議会規則第4条の2項により、委員13名のうち11名が出席しているため、本協議会は有効とされました。

## ■進行：課長補佐

- ・開会宣言
- ・開催における注意事項  
新型コロナウイルス感染の感染拡大予防に配慮した会議運営について説明
- ・配布資料確認 ※配布資料は別添参照
- ・傍聴希望者なし

## 1 福祉保健部長 挨拶

## 2 委員紹介

本協議会の任期は2年のため、昨年度に引き続き、会長は藤原委員にお願いします。

■これより、議事進行は会長となる。

## 3 議事

(1) 令和2年度第3次保健計画及び食育推進計画構成事業評価まとめについて（資料2）

【事務局】(1) 令和2年度第3次保健計画及び食育推進計画構成事業評価まとめについて説明します。

令和2年度の両計画の事業評価について、令和3年10月に、健康推進課を含め21課に及ぶ242事業について実施いたしました。各課に令和2年度に行った「構成事業調査」の内容に加え、事業実施による成果、課題、達成度について聞き、**資料2**のとおりまとめました。表が保健計画、裏が食育推進計画となっております。評価については、第3次計画の体系図を基に、関連事業を「基本方針」毎に整理し、まとめております。

まず保健計画について説明いたします。「基本方針1～3」に関連する事業については、「中止」が5～10%程度、「縮小」が5～16%程度で、70%～90%程度の事業は実施されました。続いて「基本方針4」については、「中止」が33.5%、「縮小」が44.5%で、実施された事業が20%程度に留まる結果となり、基本方針による実施状況の差については、「基本方針4」が顕著にみられました。以上の結果について、令和2年度に事業の中止や縮小が生じた要因は、殆どが新型コロナウイルス感染症の影響によるもので、各事業の課題についても、感染症対策を講じて実施できるよう検討が必要といった内容が殆どでした。コロナ禍で実施できたもの、できなかったものと分かれた事業について、資料右上の詳細をご覧ください。大きく3つあり、A)必須で実施された事業は、乳幼児健診等の法定事業や、各種相談事業、災害関係の事業で、生命維持に関わる必須な事業として優先度が高く実施されました。B)コロナ禍でも中止しなかった事業は、介護予防事業や市運動施設での事業等で、感染症対策を講じつつ、内容の変更や一部中止しながら実施されました。C)中止した事業は、法定外の健診や、福祉まつり等のイベント等で、不要不急の外出を控えていた時期でもあり、他の事業より優先度が低く実施ができなかったと考えます。

考察としては、特にコロナ禍では「衛生・感染予防」に対する市民の健康への意識の高まりが特質的であったことから、市からの情報発信については、タイムリーな発信に努めてまいりました。また、コロナ禍で様々な影響が及ぼされ、こころの健康づくりも重要であったことから、各種集客しての講座が中止となるなかでも、市民向けのこころの健康づくりの講座、教職員向けのゲートキーパー研修、児童生徒向けのSOSの出し方に関する教育は優先的に実施しました。また、今後も続くコロナ禍での事業実施について、ライブ配信やオンラインを活用する方法や、感染症対策を講じた新たな方法を模索しており、市民が参画する「つながり」や「交流」を深めていくことについて、新たな課題が

明らかになった1年であったと考えます。

今後もコロナ禍での実施について検討が続くことと思われます。コロナ禍での実施方法についてのご意見や、実際にオンライン等に変更し実施した事業をお持ちでしたら、どのように進められ、どのような課題があったか等、ご教示いただくと有難いです。保健計画の報告は以上です。

続きまして、食育推進計画についてご説明します。資料は裏面をご覧ください。食育推進計画の構成事業数は、基本方針1は33事業、基本方針2は57事業、基本方針3は41事業の計131事業となります。保健事業と同様に、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、全体の約36%が中止、約17%が内容変更等による縮小実施となりました。基本方針1～3による実施状況に大きな差は見られませんでした。調理実習や野菜の収穫など体験を伴う集合型のイベントはほぼ全てが中止となった一方で、感染拡大期の中止、講座内容を体験型から講義形式への変更、募集人数の縮減等により当初予定していた内容から縮小して実施した事業もありました。また、コロナ禍により、自宅で過ごす時間が増えたことにより、家庭で食事する機会や調理する機会が増えたこと、感染予防の観点から、「免疫力アップ」に市民の関心が寄せられたことを受け、「基本方針1(2)栄養バランスを意識する」を啓発する良い機会と捉え、市内栄養士をはじめ、市内大学や企業と連携した情報発信に努め、健全な食生活について啓発する機会の充実を図りました。

今後の課題としては大きく2点あります。右下の考察③④をご覧ください。関係各課への調査から、調理実習等の体験型講座について、コロナ禍でどのようにしたら実施できるのか模索中であるという声が多く挙がり、コロナ禍での感染対策を講じた実施方法の検討が課題となっています。もう1点は、基本方針3(1)「食を通じたコミュニケーションの機会を増やす」について、共食の機会が減少したことにより、新たなコミュニケーションの手法を引き続き模索していく必要があると考えています。コロナ禍での食育事業、特に体験型講座の実施方法についてのご意見や、委員の皆様の取組の中で、コロナ禍で新たに始めた取組や従来実施している内容を変更して実施した取組等がありましたら、その内容や課題等、ご教示いただきたく、どうぞよろしくお願いたします。説明は以上です。

【会長】ご質問、ご意見あるいはアイデアがあればいかがでしょうか。

【委員】正直困難な状況であったことは事実で、当初の計画が大きく変更されることはやむを得ない状況だったと思う。医療の立場として、保健計画でいうと特に乳幼児の健診事業をどうするかという事が当初すごく問題になり、集団で出来ないことをどうするか等、ずいぶん関係機関が工夫してくださったので、最低限、必要な健診業務、保健業務は提供出来たのではないかとということで、それは評価して十分に良いのではないかと。第3次という形で保健計画を立てていますが、優先順位がついて実施が先延ばしになるのはやむを得ない。来年度降、感染状況や社会状況により、必要なものを優先して進めていけば良いと思う。まだ流動的な面が多分にあるので、そこを見て、行政、市民、我々もできればよいと思う。

- 【会 長】スケジュールの見直しも考えてよいのではということですね。事業自体の優先順位もあれば、市民の中でも優先的に対応しなければいけない方と、まだ余裕をもって見ていただける方といますので、その辺は様子を見ながら、という事ですね。委員の皆様はどうですか。
- 【委 員】社協としては、去年は、福祉まつりを中止して、今年も中止せざる得ない状況であったが、ネット環境を整えて何とか開催した。本来はけやき並木で開催する予定だったが、ルシーニュを拠点に、オリンピック・パラリンピックで活躍された義足ダンサーの方のオンライン配信、障害者や高齢者施設、相談機能を持った施設の施設紹介をリモートで行った。実行委員会の中での意見を聞くと、従来は公園で開催していたが、来られる方が限定していたが、今回オンラインで配信したことで、北九州や北海道など遠方から声がかかったりして、広く意見が聞けて良かったという話があった。
- 【会 長】市民の立場からはいかがですか。ご自身の体験でもご感想でも結構です。
- 【委 員】私自身も一人でおりまして、最初は家から出ず、自重していた。友達も誘えなくて電話が長くなった。どこかに出なければと思い、遊学の会に入ってパソコンと映像に入った。パソコンがリモートだった。また、今こちらでやっている「おはなしブーメラン」での読み聞かせ、「ノルディックでつながる会」の活動もニーズの多い地区ごとに分けて実施する、お話ブーメランは3件やっていた保育園を1件になど、いろいろな面でボランティアの皆さんとどのようにしたら良いか何とか考えてコンタクトをとった。知恵を出し合い、乗り切った。ここでやっと解放されたので、少し会う機会が増えた。
- 【委 員】私は、今年の3月から乳児に係る仕事を始めた。マスクをしなければならないので、マスク越しで、食べる指導をどのようにしたら伝えられるか考えながらやっている。工夫としては指人形を使うなど、みんなで考えながらやっている。それから、病院受診の際、今までは並んでいたが、今はスマホで予約ができるようになってきている。高齢者はスマホが使えないと受診もできないのかと、インターネットをもう少し勉強しなければこれからの時代は難しくなるのかなと思っている。
- 【会 長】おそらく市民の方々の方がアイデアや知恵を絞ってうまく生活や社会活動をされているのかなと思います。キーワードはデジタルをどう使うかと、ディスタンスを保ち、屋外でどういう活動ができるか。まだ大人数は憚れるところだが、小分割してできれば屋外も活用ですね。農協でも農業体験を進めておられるという事です。私の知る情報としては、少し前から農福連携と言って福祉活動の一環で農業を体験したり、それが有償ボランティアになったりする取組みを国も進めている。屋外の活動で、親子体験や男性の高齢者などで人とコミュニケーションをとるのが苦手という方も農業体験やモノづくりなら支持されると聞いている。シニアの方がスキルを身につければスタッフと一緒に子どもの支援や家族支援などもう少し出来ることが増える。また、保育園においては、訪問が無理になり、公園で紙芝居のようなお話会をして、お散歩で来てもらうなど試みられている方もいる。様々な知恵やアイデアも出てきているが、アイデアを出した後、誰が応用し、実現できるのか、結びつけるのか等、次のアクションが重要。全部自分の

部署だけでやるのは大変だと思うので、他部署、市民団体、または市民以外の関係機関などと連携してやればよいのではと思う。

(2) 新型コロナウイルス感染症について (資料3)

【事務局】 (2) 新型コロナウイルス感染症について説明します。

1. 感染症対策については、府中市新型コロナウイルス感染症対策本部を令和2年2月17日に設置し、事業実施の方向性や緊急事態宣言下での施設使用等、市の対応方針を決定するための会議を本日までに59回開催しております。市民に対しての啓発では、広報・ホームページ・配信メールや各種イベント時の会場案内等で行っており、緊急事態宣言中は特に重点的に発信しました。また、感染第5波期間中は自宅療養者が増加したことから、食料品等の支援を行いました。これは、保健所業務の補完的な役割として、都のフォローアップセンターから食料品が届く前の期間の支援であり、午前中に申し込むと午後には支援物資が配送されるものです。期間中の実績は52件でした。

次に、2. ワクチン接種の経過について、4月11日から90歳以上の方へ予約・接種を開始し、その後高齢者、基礎疾患がある方、施設従事者と、国の示す優先順位に沿って予約を開始しています。資料3別添をご覧ください。中央のグラフは接種者数、下段の表には接種会場数を掲載しています。ワクチンの供給量に合わせて接種会場数を増加し、接種をすすめました。8月中旬から、国からのワクチンの供給が激減したため、地域の個別医療機関の予約は一時停止した、という経過があります。資料3の裏面(2)接種実施状況ですが、11月11日時点での実績を示しています。最新の実績としては、11月25日時点で1回目接種率が82.8%、2回目接種率が80.1%となっております。次に、3. 追加接種についてです。対象者は「2回目接種した者のうち概ね8か月経過した者」となります。市に接種記録が届いている方について、接種券を発送し、資料記載のスケジュールで12月から追加接種を開始します。説明は以上です。

【会長】 ご質問、ご意見いかがでしょうか。

【委員】 今年になってから目まぐるしい状況で、春からワクチンがやっと供給され、夏の感染状況がとても厳しかった中、これだけ良く遂行できたなど、今の段階で8割の方が達成できたのは良かった。今後同じような感染症があった時にも貴重な体験になると思う。残念ながら現在進行形であるが、知恵を絞って乗り越えながら、行政も医療も協力してできることが良かったと思う。

【委員】 資料3の1(3)について聞きたい。感染対策期間中(8月31日から9月28日)とあるが、この間で52件の支援があったという理解で良いか?

【事務局】 はい。

【委員】 この期間は感染者が大きく膨れ上がり、病院にも行けない、買い物にも行けない方はたくさんいたと思う。実はそのような方に届けられないかという問い合わせを結構いただいたが、お店の方に対象者の方へ届けていただくわけにはいかないということで残念ながら受けられなかった。市で実施した状況をもう少し詳

しく教えていただけたらお願いしたい。

【事務局】この52件の考え方についてご説明すると、当初、陽性者の情報が保健所の管轄の中で東京都から区市町村に降りてこない状況で始まった支援です。窓口を設けたうえで、自宅で療養していると、自己申告で出てきたものに対する対応であった。この期間で52件、この後、現状も続けているがこれ以降は0件が続いている。今後第6波が懸念されているので、この支援の体制は継続していきたいと考えている。ここで、陽性者情報が市町村でも把握できるようになった。今後は市が把握した方へのアクションを市が起こすこともできると考えている。

【委員】差し支えなければ、実際に支援を受けた方の声や反応はあるか。

【課長】8月に入り感染者が増える中で、入院できない、ホテル療養もできない、一人暮らし、家族全員が濃厚接触者などの支援を必要とする方に対し、置き配で届けた。午前中にお電話いただければ、午後には玄関先に届ける仕組み。東京都から物資が届くまでに1週間弱かかった現状があるので、急場をしのぐための3日分をセットしたものを、配達はシルバー人材センターに委託した。中に、『コロナに感染した方へ』という都からいただいた冊子も入れた。置き配であったため、具体的な声は直接届いていないが、ピークをしのぐ対策としての行政の連携の仕方については学びも多く、これまでの関係性の中で、シルバー人材センターの協力体制がすぐに得られたことが有難かったと思いました。

【会長】ウーバーイーツなどを活用した、コンビニからの配達は今後期待できるのか。

【委員】現時点でウーバーとの協力という話は出ていない。現在、ネットで注文した商品を30分程度で配達するサービスを北海道、広島、23区の一部でテスト的に始めている。今後拡大していく動きはある。皆様にすぐ活用していただくサービスになるかは分からないが、お買い物をするという事が多岐にわたってきている中で新たな取り組みを始めている。

【会長】定期便ならシルバーなどでも良いが、急に必要となるとスピーディーに配達できる民間企業など、いろいろな引出しでやるとよいと思う。

### (3) 元気いっぱいサポート事業・食育推進事業に関する取組について（資料なし）

【事務局】元気いっぱいサポート事業及び食育推進事業は、イベントや講座、グループ活動などを通して人とのつながりが重要となる事業です。令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けまして、多くの人が集まるようなイベントや講座は、感染予防の観点から中止となりました。そのため、コロナ禍でも健康意識を高めてもらえるよう情報発信を実施しました。元気いっぱいサポート事業では、サポーター通信を作成し、元気いっぱいサポーターへ健康情報を発信しました。食育推進事業では、バランスのよい食事などの啓発と合わせてレシピの配布を行いました。自主グループ活動については、「ノルディックでつながる会」「おはなしブーメラン」「食育推進リーダー パブリカ」の3つのグループへの活動支援を継続しております。各グループとも例年どおりの活動はできていませんが、各グループで活動内容を検討し、定例会や勉強会、ウォーキング、レシピ考案など感染予防をしながら、コロナ禍でもできることを実施しています。説明は以上です。

【会長】ご質問、ご意見いかがでしょうか。

無いようですので、次に進めます。

(4) 自殺対策の取組について (資料4-1)

【事務局】府中市における自殺の状況と府中市自殺総合対策計画の評価についてまとめています。①は、厚生労働省が作成している「地域における自殺の基礎資料」の平成27年から令和2年の数値を参考に、自殺者数と自殺率の推移をまとめたものです。まず、令和2年における府中市における自殺者数は40名でした。推移としては、平成29年に29人に下がりましたが、その後徐々に上がってきています。令和2年は、新型コロナウイルス感染症の影響が想定されますが、国や都の自殺者数も増加したように府中市でも前年度より増加しました。男性が28名で全体の70%、女性が12名で全体の30%の内訳となっております。自殺率を見ると平成29年からの4年間は国および都よりも下回っています。②は令和元年度に策定した「府中市自殺総合対策計画」の評価になります。対象は市内26課の122事業について「計画」、「実施状況」「評価・達成度」「改善点」について評価を依頼しました。令和2年度の評価に関しては、ほぼ100%の事業が「計画通りに実施」されていきました。令和3年度の評価では、新型コロナウイルス感染症が影響し、事業実施が「やや遅れている」や「未実施」「事業変更」がみられるようになりました。具体的な割合は資料にお示しした通りです。資料4-2をご覧ください。自殺の動向と自殺対策の課題についてまとめております。先日、令和3年度自殺対策白書が厚生労働省より示されました。その中で「新型コロナウイルス感染症の感染拡大下の自殺の動向」について、分析がされています。令和元年の自殺者数は統計開始以来最小であったが、令和2年は11年ぶり増加しました。女性の自殺の増加が目立ち、職業別では「被雇用者・勤め人」原因としては「勤務問題」が増加しています。また、「学生・生徒の自殺の増加」も見られるのが特徴でした。府中市の自殺の特徴を見ますと、令和2年度の自殺者数は40名と過去5年の平均を上回りました。国の動向と同じく、女性の自殺が増加傾向にあります。具体的な取組としては、若年層向けに教職員向け研修会や健康長寿医療センターのご協力のもと、SOSの出し方に関する教育を実施しています。次に、年間数件ですが、他課や他機関から自殺の「ほのめかし」や未遂者に関する助言を求められる事例がありました。また、有職者向けの取組として、市のホームページの活用・商工会議所やハローワークでのリーフレットの配架を行っております。これらを踏まえ、市の自殺対策の課題を3点あげました。1点目は、無職独居男性や女性への支援の充実、2点目は職域との連携推進、3点目は支援者向けの支援です。委員の皆様より、特に1点目・2点目について、それぞれのお立場からご意見をよろしくお願いします。

【会長】ご質問、ご意見いかがでしょうか。

【委員】資料4-2府中市の取組みで、支援を求めているのは誰か。

例えば、学生なら保護者なのか、高齢部門なら関わる方は当事者と家族と介護関係者だと思うが、その方々から助言をリクエストされたのか。また、課題の無職独居男性、社会とのつながりが全くない方は、どこからもリーチできない。精神的な対応や、精神福祉的な対応ができる取組みがあれば教えてほしい。

【事務局】学生や生徒については、学校からの相談が多く入っている。はっきりとした分

析はできていないが、一つは、教職員向けの自殺対策の研修会を定例で開いているのが少し実を結んでいるのかもしれない。直接「死にたい」と声が上がった学生の担任や管理職の先生から保健センターへ連絡が入る。先生方は教育委員会へも上げているようで、教育委員会からも同じようなタイミングで連絡いただけるという流れが少しずつ出来てきている。連絡をいただいた後は、子どもを取り巻く先生、スクールカウンセラーやたちなどの関係機関で集まり、会議をして、知恵持ち寄りながら経過を見守るという対応をしています。高齢者については、一番は包括支援センター職員からの相談が直接入ることが多い。すでに亡くなってしまった方に関わっていた包括支援センターの職員が心を痛めてしまったケースでは保健所や、医療機関の先生、庁内の部署で集まり、精神科の助言をいただきながらその方へのメンタルケアをした症例もあった。包括支援センターにも自殺対策が浸透しつつあるのか、ご相談をいただいて、一緒に対応したケースが今月もありました。地域からの事例の入り方と対応についてです。最後に無職独居へのアプローチですが、9月と3月の自殺対策月間の際に、地域に根づく包括支援センターにリーフレットを配布し、出来る限り把握している独居の方に配布してもらっています。ただ65歳以下の方へは課題で、今できることとしてはハローワークで職を探している方への相談先の紹介等のアプローチしかできていない。

- 【会 長】求職活動していればいいが、もともと一人で籠っている方へは、万年アウトリーチしていかなければならない。逆にこのような方は、コロナでなく潜在的なものと認識して良いですかね。
- 【委 員】自殺というのは積極的に自ら命を絶つという事ですが、消極的に死んでしまう『孤独死』も問題だと思う。元気に通っていた中年の患者が孤独死し、警察から連絡が入り歯からの鑑定を依頼されたことがあった。中高年の引きこもりや高齢者においてはコロナで引きこもりがちになり、特に男性の方が孤独になりやすく、話もしないのでどの筋力も使わない、誤嚥性肺炎、フレイルが増えるなどがある。府中市の孤独死の統計など分かれば教えてほしい。
- 【事務局】「孤独死」の件数についての統計はでていない状況です。
- 【会 長】女性の支援の充実という点ですが、女性は仕事で解雇されて、という年代の認識で良いか。
- 【事務局】暫定値ではつきりとは出ていないが、今年度女性が増えていて40、50代であるということで、国の統計と同じ被雇用者とパートではないかと思っている。
- 【会 長】おそらく飲食店、サービス業関係を解雇された方のリスクが高いと思うが、このあたり商工会議所の立場でなにか情報やご意見はありますか。
- 【委 員】販売担当なので、自殺に関してのリーフレットの配布などについては分からない。商工会議所でも、販売の方はまだ良いが、飲食は大変なようで、せつかく店が忙しくなったのに人手が足りないという状況はあるようだ。
- 【委 員】この2年くらいは、飲食店の裏表になると思うが、いわゆる収入目標に届かないという事で応募いただく方が増えている状況である。これまで人手不足が大きな悩みで、それに対する施策なども我々はやってはいるのだが、現在は多くの応募があり、選べる状態になったと聞いている。どの程度の方が、パートやアルバイトだけで生計を立てているかは分からないが、これまで仕事があったものがなくなり、影響を受けた方は今のご時世では多くいるのではないかと。勉強不足で違ったら申し訳ないが、去年から今年にかけて生活自立支援という小口で緊急的な貸

出が制度としてあり、回数、金額の上限などの条件がある中で、必要な方は利用したと思う。新たに打ち出された国の経済政策の中ではその方々へのケアなども報道の中では出ているが、例えば、生活支援を受けた方や相談に来られた方が、その後どうなったのか、把握しているのか。そういう方はリスクが高いので支援の入口になるのではと単純に考えたのですが。

【委員】小口利用資金、総合利用資金の窓口は社協であったが、一時期は本当に混乱し、頻繁に借りに来る方もいた。社協としては、ただ借りるだけでなく、何がそこにあるのかを求めることが大事なので、当初は丁寧に対応して行こうと取り組んでいたが、あまりにも件数が多くなり対応ができなくなったのが実態。後半は、郵便局でも貸し付けの対応を開始していただけたので、社協には外国人の方が多くなって外国語での対応にまた混乱した。社協の本来の姿としては、地域で起きていることを見て模索しなければならないのですが、そこがやりきれなかった。先程来、自殺、地域の困りごとの話が出ているが、65歳以上で制度にのっている人は良いが、制度の狭間にいる人、どことも接触のない人にどうするかが社協の永遠の課題、社協の一つのジャンルであると思う。その情報をどこで得るか、また『共有する』ということが難しい。今、社協で行い、地域で育ち始めている『わがまち支えあい協議会』という協議体があるが、情報が得られない。支える方はいるが情報が届かないのが現状。社協の役割をとにかくより多くの方へ知ってもらうことが先決であろうと思っている。自殺に関しても、制度に外れた人の情報をいかにキャッチするのが大きな仕事だと思っている。

【会長】特に女性の支援となると就労支援が大事。意思があり動ける方は良いが、アンテナも弱くアクションも遅い方は難しいのでワンストップで支援できる体制が必要である。解雇される業種もあれば、人が流れてくる業種もあるので、マッチングが必要。たとえば、コロナ禍で介護現場などは慢性的な人手不足だったが、介護現場は女性からすると日常の延長で、今までの経験を生かしてできることもあるので、福祉業界の慢性的な人手不足に、サービス業から流すのも良いと思う。これは一つの事業所でやるのは難しいので、市や社協等が連携してやっていくとよい。就労支援にどうつなげるかという事を自殺対策の受け皿として考えていく良い機会なのではないかと思いました。

#### 4 その他

【事務局】長時間にわたり、ご審議等いただきありがとうございました。本日の議事録は、後日、委員の皆さまにご確認いただき、1月中旬を目途に公開する予定です。公開は、市役所3階市政情報公開室・市内図書館・市ホームページ等を予定しています。議事録においては、発言者の氏名は記載せず、会長については「会長」、それ以外の委員の方々については単に「委員」と表記させていただきます。

また、次年度以降について、今年度の協議会は、1回のみで開催となり、本日で終了となります。本協議会の任期は2年となるため、現委員の体制としては、今回の協議会をもって、一旦、任期終了となります。しかしながら、本協議会は来年度以降も引き続き実施してまいりますので、開催に当たり相談、連絡等させていただいた際には、どうぞよろしくお願ひいたします。

【事務局】委員の皆様には、この2年間、特に昨年度は、保健計画と食育推進計画を一体的にご審議いただき、コロナ禍ではありますが市の計画として市民の方に周知できたことは本当に大きな成果でした。事務局としても、様々な立場でのご意見や、実態も含めた意見交換できる貴重な場とっております。市民のアンケート調査

だけではなく、専門的知見から、また、それぞれ所属される団体等の立場や、あるいは市民の目線からの貴重なご指摘、ご意見を本当に有難く受け止めさせていただいております。次年度について、またご相談させていただいた際には、受け入れも含めてご検討いただきたいと思います。今年度は1回でしたが、このような形で開催できたことを大変うれしく思っております。また来年度以降もよろしく願いいたします。有難うございました。

【会 長】事務局からの連絡事項についてご質問はございませんか。

それでは無いようですので、これで本日の令和3年度第1回府中市保健計画・食育推進計画推進協議会を終了いたします。長時間にわたり、お疲れ様でございました。

以 上